

CHも帰還した奇跡の地区N総合優勝鳩

ドリームメーカー号

08HR05261 BC ♂ 百溪英一鳩舎作翔

2008年秋100~500K 500K 48位

2009年春茨城中300K 776羽中113位 400K 607羽中21位

Rg 500K 953羽中総合46位、連合会39位

地区N 700K 460羽中総合優勝

東日本CH 3日目帰還 (誤って参加させ、無事帰還)

2009年春 茨城中地区N

茨城中連盟主催 北海道長万部700K

4月11日 5時40分放鳩 天候)晴→晴

参加460羽 (52鳩舎)

実距離/725.437K 分速/1401.225m



ニッポンウディ
2009

Photo by Aikyunotomo

ドリームメーカー号の全兄弟

ドリームシスター号

08HR05262 BC ♀ 百溪英一鳩舎作翔

08年秋400K 18位

09年春茨城中地区N 460羽中総合135位

東日本CH 10, 202羽中

総合322位 (2日目帰り)

茨城中桜花賞219羽中総合19位

ドリームメーカー号&ドリームシスター号の血統

→カイザー597号 AU03CBS3597 BC
オクラホマ州CBS作出

現・百溪鳩舎純ヤンセン系代表種鳩

→01CBS2824 CBS作 純ヤンセン
銘鳩019、ヨングメルクス近親系

→AU00CBS448 CBS作 純ヤンセン
ロイヤル・カイザー直子 カイザー号孫
銘鳩019号近親

→VIC691号 AU06CBS2691 B

CBS作出 百溪鳩舎純ヤンセン系種鳩

→CBS作 VIC号 (019号の孫で兄弟
3,000羽以上のレースで優勝16回)の直子

→AU03CBS435 B CBS作
VICTORY号 (29,045羽中優勝、
20,000羽中2位他)の直子 銘鳩019近親

Photo by Aikyunotomo

奇跡は2度起こる!

地区N総合優勝&東日本CH入賞

百溪英一鳩舎 (土浦連合会)

本文104頁参照

終わり良ければすべて良し

09年春茨城中地区N総合優勝 百溪英一鳩舎（土浦連合会）

今春の地区Nで人生初の総合優勝を飾った百溪英一鳩舎だが、その優勝鳩が何と行方不明に…。舎外でやられてしまったのかと落胆していたところ、東日本C Hから三日目に帰還したのは当の総合優勝鳩だった！

カラー10頁参照



百溪英一さんと奥様の百合子さん。鳩舎前にて。

◇百溪英一氏プロフィール◇

獣医学博士。独立行政法人動物衛生研究所ヨーネ病研究チーム上席研究員。茨城県立医療大学非常勤講師。(社)日本鳩レース協会・協会運営有識者特別委員会座長。レース歴/再開6年 主力系統/ヤンセン系、アールデン系 代表翔歴/400K総合4位、700K 5位(会長賞) 今春のスタート羽数/60羽

遺伝学の知識を生かした種鳩選び

ことの始まりは、今春の茨城中地区Nであった。分速一四〇メートルで百溪鳩舎の自鳩舎トップで帰還した百溪英一鳩舎の鳩は、二位を三十五メートルもちぎっていたのである。再開六年目にして、鳩人生初の総合優勝。まさかこの優勝鳩が、行方不明になるとは思ってもいなかった：

つくば市在住の百溪英一さんは根っからの愛鳩家。獣医学博士であり、専門は牛などの家畜における伝染病の研究(詳しく言えば、結核菌の様な細胞内寄生菌の研究)。サルモネラ菌も研究範囲である。

再開当初、自鳩舎の鳩がサルモネラにかかり、鳩が全然帰ってこなかったことがあった。そこで効果のある治療法を自ら研究した。これには同じく獣医であり、臨床をやっている奥様の百合子さんも協力してくれたという。

サルモネラを克服してからは鳩もうまく育ち、帰還率は抜群になった。一昨年は四百キロで総合四位。去年は連盟で会長賞も



百溪ひかりさん

総合優勝鳩の父。その資質は穴沢氏と娘のひかりさんが見抜いていた。

獲得。仕事柄、春は学会等があり訓練に時間をかけることはできないものの、少しずつ結果も出始めた。「勝ちにくい」という愛鳩家よりも「帰って来ればいい」という愛鳩家肌だが、今年によく鳩を見る事ができた。餌の量を変えたり、調子の悪そうな鳩がいたら治療してやったりと小まめに管理をしたのも大きかった。

百溪さんは遺伝学の知識に詳しいことが

ら、種鳩選びも独特である。主力は、アメリカのCBSという鳩舎から導入した純ヤンセンで、今回の総合優勝鳩もこの系統。血統的にはオランダのシモンズ鳩舎の純ヤンセンで019の直系だという。シモンズの019ラインの中に、全兄弟で二十羽くらい優勝鳩を出した当たり配合があった。それをアメリカのCBSが入れ、成功したという情報を聞きつけて導入したのだ。血統的には019の直系で全兄弟で飛んでいるところがポイントだと思った。

「全兄弟と言っても両親の遺伝子が多様に組み変わってしまうので、揃って良い鳩ができることは難しい。だからこそ価値があると思いました」

その推察は正しかった。今回の地区N総合優勝鳩の全兄弟も東日本CHで翌日帰りし、一万二〇二羽中総合三二二位。しかも、この鳩は地区Nで自鳩舎二番手に帰還していたのである。

実は、優勝鳩の兄弟である雌の方に期待していた。ヤンセンのリヒテであり、誰が見ても、これなら、と思うようないい鳩だった。しかし、地区Nで抜けてきたのは

「リヒテっぽくない」灰胡麻の雄。父鳩にそっくりだったという。

この父鳩に関しては面白いエピソードがある。埼玉の銘鳩コレクターである穴沢友英さんが百溪鳩舎を訪ねて来た際、「一番いい鳩はこれだね」と血統も見ないで指摘してきたのだ。そしてもう一人、この雄鳩の価値を見抜いていた者がいた。娘のひかりさんである。小学生の時、「お父さん、この鳩は絶対いいから捨てないで」とお願いされたという。この鳩をあまり評価していなかった百溪さんは「この鳩は主翼がだらんと下がっているからこういうのはあまりよくないんだよ。主翼が交差するくらいじゃないとね」と説明していた。銘鳩を見抜くベテランの目と子供のピュアな目——それが同じ鳩を指差していたのが興味深い。

優勝鳩がいらない！

さて、初の総合優勝の喜びは計り知れないものがあった。百溪さんののんびりした飼い方を知っている土浦連合会の仲間も「やりましたね、先生！」と驚きながらも



カラー頁の2羽、ドリームメーカー号（地区N総合優勝・右）とドリームシスター号（東日本CH2日目入賞）は全兄弟配合された。

だよ」と忠告しつつも悲しんでくれたり、「自分も優勝鳩をタカにやられたことがある」と慰めてくれたり。しかし、消えた宝物は帰っては来ない……

実は、この話にはからくりがあった。地区Nの帰還鳩に関しては、帰還当日に問合せもあるので参加リストの紙に帰って来た順番に丸数字を付け、帰った時間をメモしておいた。「それを間違っただう鳩の番号に付けてしまったんです」。そっくりな兄弟鳩に丸を付け、ストップさせた。その兄弟鳩が取材当日、なぜか鳩舎をいくら探し

ても見つからなかった。舎外でタカにやられた鮮烈なイメージ。これらのことがいくつも重なって、優勝鳩を失ったと思いついてしまった。しかし当の総合優勝鳩は、なんと東日本CHに参加していたのである。

奇跡の生還

今春、百溪鳩舎の東日本CHへの参加は五羽。百溪さんの頭の中では、優勝鳩の兄弟二羽を含む純ヤンセン系二羽と1/2ヤンセン一羽、アールデン系二羽を参加させたつもりでいた。その中に、知らず知らずして地区N総合優勝鳩も加わっていたのである。翌日にまず一羽帰還。これは本当に優勝鳩の全兄弟（ドリームシスター号・カラー頁参照）だった。さらに三日目、アールデン系の二羽が帰還した。そして最後、午前十一時台に帰還したのが純ヤンセン系の灰胡麻。この時にはまだ気づかなかったが、実はこれが地区N総合優勝鳩であった。CHで帰って来た鳩の翔歴を整理しておこうと、三日目も含めて四羽の鳩の脚環を書き出した。データを整理して一覧表を作

っている時に、奇妙な事に気づいた。思い込んでいた地区N優勝鳩の脚環が違う。ふいに、東日本CHの最後の帰還鳩が地区N総合優勝鳩だという事実に気づいた。

「いた！」

自分でも驚き呆れた。何をやっていたのか、と。

「仲間にも心配をかけてしまいましたしね。もちろん、帰って来たのはうれしかったのですが、自分に呆れましたよ」

三日目に三羽帰って来たが、残念ながら、CHは時計を翌日で記録解除していた。ちょっと惜しいことをしたな、とは思ったものの、宝物が帰って来た喜びには代えられない。そしてそれ以上の喜びは、鳩友がみな、この鳩の帰還を自分のことのように喜んでくれたことだった。

「そもそも優勝候補ではない私が地区N総合優勝したことにみんな驚きながらも、すごく喜んでくれたんです。仲間に恵まれているな、と思いました」

みながこの鳩のことを巡って様々な感情を分かち合った。いなくなれば心配し、CHで帰って来れば優勝時以上に喜び、気持

一鳩仲間とラーメンを食べながら総合優勝のお祝い。
右から山内 忠さん（常南）、百溪さん、左手前から
金洲秋雄さん（松戸東部）、山浦純一さん（常南・本
誌「遺伝学への巡礼」著者）。



ちを共感してくれた。総合優勝よりも、鳩
が戻ったことよりも、人の温かい心に触れ
たことが何よりうれしかった。

元々、今回の優勝とCHの四羽帰還は一
人の力によるものではなかったという。振
り返れば去年の夏、近所に住んでいる平成
千葉連盟の強豪・吉波勝男さんが何度も訓
練に誘ってくれたことが大きかった。

「今年は一緒にやりましょうと、朝五時前



左から山本雅嗣さん、岡林信康さん、百溪さん、穴
沢友英さん。地区N総合優勝と山本さんの伊賀800K
3位を祝って赤坂の寿司屋に集合した。

に何回も来てくれるんですからね。こちら
もその気になりましたよ」

この数奇な物語は鳩仲間の間に瞬く間に
広まり、感動を呼んだ。連合会の仲間や吉
波さん、遺伝学の知識も交換しあう山浦純
一さんや、今西系で付き合いのある山本雅
嗣さん、穴沢友英さん、フォークシンガー
の岡林信康さんはじめ、みなが優勝鳩の帰
還を自分のことのように喜んでくれた。

「そもそもはどじ話なんですけど、改めて
鳩の仲間のすばらしさを感じました」

鳩の趣味を通じて、人間の「良い面」、
「純粋な面」を改めて感じた。そこには、
お金には代えられない価値があった。鳩も
よく帰って来てくれた。自鳩舎では一番遅
い帰還だったが、帰って来てくれたからこ
そドラマが生まれた。純真に鳩舎だけを自
指して帰って来る鳩。共に鳩を待ち構え、
同じ感情を分かち合うことのできる稀有な
仲間たち。いい趣味だな、と思った。

終わり良ければすべてよし。

優勝鳩の名前は「ドリームメーカー」。
夢は幻として消えることなく、新たな夢を
生み出す種となった。

(リヒテ)